

令和5年12月22日

令和5年度2学期終業式あいさつ

- みなさん、こんにちは、校長の都丸です。
- 本日で、2学期が終了となります。また、あと1週間程度で、令和5年が終わろうとしています。今年は、みなさんにとってどのような年だったでしょうか。
- 今年は、何ととっても、新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行されたことが、大きな話題でしょうか。これまで足かけ4年間、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活は大きく変わりました。
- また、この3年間は、学校生活においてもマスクの着用からはじまり、学校閉鎖や分散登校などと、経験したことがないことがあり、さらに、昼食は自席で会話ができなかったり、対面での会話には一定の距離を保つことが必要だったり、部活動では声を出すことや接触を控えるなど、様々な制約があり、なかなか思うようなことができませんでした。
- みなさんは、先生等からの指示を受けて取り組んでいたと思います。そのために、コロナ禍の3年間では、なかなか主体性や自らが考えて行動することが育めなかったと感じています。
- ただし、ICT機器を活用して、物事を効率的に進めることや、何気ない当たり前のことが大切なことだと気づかされたことなど、学んだことも多くありました。
- やっと新型コロナウイルス感染症の扱いが変わり、これまで生活が戻ってきた今年は、みなさん、どうでしたでしょうか。これまでたくさんの制約があり、それが解除され、多くのことに取り組まなければならなくて、「どうしたらよいのか」などと迷ったこともあったと思います。
- そんなことも含め、今年を振り返ってみてください。今年の年始、あるいは年度始めで自身が立てた目標、心に決めたこと、計画などが達成できたでしょうか。計画どおり進められたでしょうか。
- こうして振り返る中で、あるいは物事を進める中で、「なぜ」「どうして」と考えることがとても大切で、そして、自分は「どうするのか」、そんなことを自問自答することが必要だと、私は思っています。
- 私が、霧が丘高校の校長として着任して、9カ月がたちました。この間の私の、霧高生諸君の印象ですが、とっても素直で、優しく、学習に真面目に取り組み、行事には真剣に、一生懸命に取り組む生徒たちとして、とても好印象です。でも、みなさんを見ていると、もっとできるのではないかと思います。まだ自分自身の能力を出し切れていないのではないかと、自分自身

の能力に蓋をしてしまっているのではないかと、そんな気がします。もっとできるのではないかと感じています。もっともっと自らの可能性を信じて、主体的に、自ら考え行動し、何事にもチャレンジしてもらいたいと思います。そして、霧が丘高等学校はインクルーシブ実戦推進校です。「インクルーシブな学校づくり」に自分がどのように行動するのか、どのように進めていくのかも考えてもらいたいと思います。

- 来年は、甲辰の年です。甲辰の年は、これからの成功や成長が芽吹くために種子の内側でどんどん大きくなっていく年であり、人によっては芽吹くと大きく旺盛に実る年になるということです。ただし人によっては芽吹くまで至らず、成長の実をつける時まで黙々と育てることが続く年になるかもしれません。
- 霧が丘高校のキャッチフレーズは、「チャレンジ ～未来を切り拓け～」です。是非とも主体的に取り組むようにしてください。
- 最後になりますが、来年の始業式には、みなさんと明るく、笑顔であいさつができることを楽しみにしています。よい年をお迎えください。